

第4章 基本的な方針および計画の目標

4-1. 基本的な方針

前章までに整理した、これまでの取り組みと現状の問題点、今後の課題に従い、岡垣町における公共交通網を形成していく上での2つの基本的な方針を以下の通り定めます。

基本方針1 安全で快適な持続可能なまちづくりを支える公共交通

これまでの公共交通網の構築に向けた方針を維持しながら、さらに持続的かつ安全・利便性の高い公共交通への転換を図るため、利用状況や町民意向を踏まえながら、移動ニーズの変化に合った移動サービスへの転換を図ります。

同時に、まちづくりにおける都市の集約化と連携した公共交通施策（適材適所の移動サービスの提供）の展開により、持続的な都市と公共交通ネットワークの構築を図ります。

基本方針2 地域の活性化や健康増進に繋がる公共交通の利用促進

公共交通を利用した移動の目的地となる町内施設（公共施設や商業施設・医療施設・教育施設、観光施設等）と連携しながら、外出や移動の目的を作り出し、公共交通の利用促進につなげるとともに、地域の活性化や健康増進を図ります。

4-2. 計画の目標

岡垣町における公共交通網の形成に向けた基本方針に基づき、岡垣町第6次総合計画の基本理念である「自然と共生する しあわせ実感都市 岡垣」を実現するため、公共交通網の形成による3つの計画目標を定めます。

計画目標 1

安全で快適な移動環境の創造

少子化・高齢化等の人口動向による町民や来訪者の移動ニーズの変化に加え、IT技術の進展による移動サービスの提供方法の多様化を踏まえながら、適材適所のサービス選択によって、安全で快適な移動環境の創造を目指します。

計画目標 2

環境に配慮した持続可能な交通環境の形成

持続可能なまちづくりを進めるため都市計画と地域公共交通計画を連動させ、拠点間を結ぶ軸の形成による移動の効率化を図るなどの公共交通ネットワークを展開し、公共交通に対する財政負担の軽減を図り、環境に配慮した持続可能な交通環境の構築を目指します。

計画目標 3

安心して利用できる公共交通を守る施策の展開

移動の目的地となる公共施設や商業施設、医療施設、観光施設等と連携しながら、公共交通を通じて、高齢者等の社会参画やイベント参加、レクリエーション活動などの外出や移動の目的を作り出し、地域の活性化や健康増進に繋がります。また、公共交通の維持に向けて、町民意識の啓発を図ります。

4-3. 岡垣町における公共交通網の将来像

4-3-1 短期的に目指す将来像（令和4年10月～）

コミュニティバスの利用者数の減少、利用者像の変化、波津線のコミュニティバスによる代替等の状況を考慮し、地域の実情にあったサービスの提供を図るため、JR線以南の地域全域にデマンド交通※を導入し、縮小化・個別化する需要への対応と、サービス全体の効率化を図ります。

幹線軸（JR）

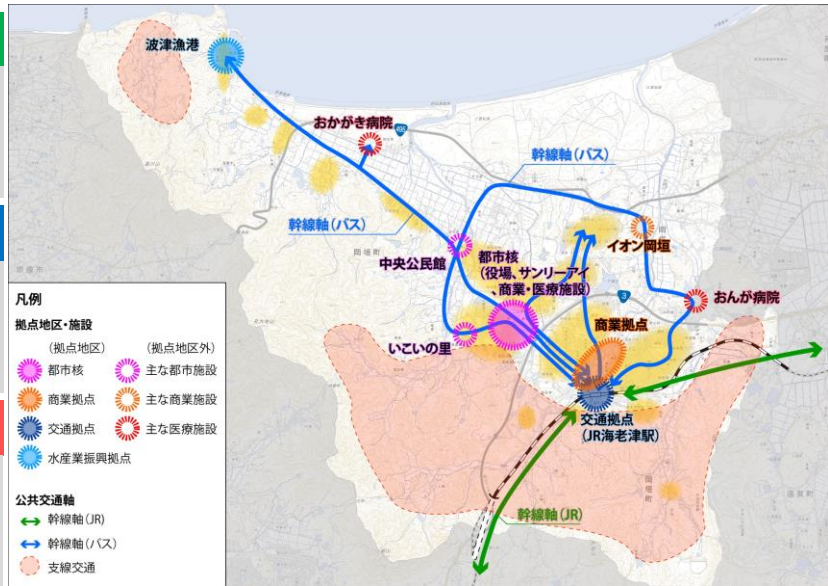
≫ 海老津駅を岡垣町の玄関口とし、北九州都市圏や福岡都市圏への広域的な移動を担う

幹線軸（バス）

≫ 海老津駅を運行拠点として町内の人口集中部や主要拠点を連絡し、町内の円滑な移動を担う

支線交通（デマンド交通）

≫ 幹線軸を補完し、主に交通弱者に対して柔軟かつ効率的な移動サービスを提供する



4-3-2 長期的な将来像

さらなる高齢化の進行・交通弱者の増加や公共交通ニーズの変化、公共交通の担い手の減少等の状況を踏まえ、町内の主要幹線軸の維持を図りながらも、デマンド交通等の支線交通の拡充による町内全域で利便性の高い公共交通体系の構築を目指します。

幹線軸（JR）

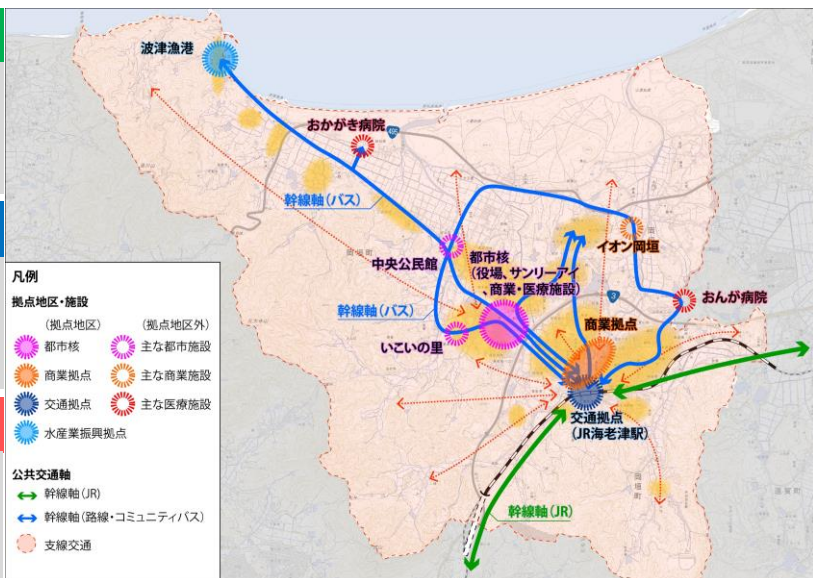
≫ 海老津駅を岡垣町の玄関口とし、北九州都市圏や福岡都市圏への広域的な移動を担う

幹線軸（バス）

≫ 海老津駅を運行拠点として町内の人口集中部や主要拠点を連絡し、町内の円滑な移動を担う

支線交通（デマンド交通）

≫ 幹線軸を補完し、主に交通弱者に対して柔軟かつ効率的な移動サービスを提供する



※デマンド交通：乗合タクシーのように事前予約型で運行する移動サービスのこと

※巻末資料：地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統（補助系統）